

2025年3月期 第2四半期決算説明会



デリカフーズホールディングス株式会社

DELICA FOODS HOLDINGS CO.,LTD.

東証スタンダード 3392

2024年11月22日

Agenda

1. 会社概要

2. 業績説明

3. 上期トピックスと

第五次中期経営計画の実行状況

1. 会社概要

会社概要

商号 デリカフーズホールディングス株式会社

創業 1979年(名古屋)

所在地 東京都足立区六町4-12-12

資本金 1,772,363千円



役員	代表取締役社長	大崎 善保	社外取締役	尾崎 弘之
	取締役会長	舘本 勲武	社外取締役	柴田 美鈴
	取締役	小林 憲司	常勤監査役	田井中 俊行
	取締役	仲山 紺之	社外監査役	森田 雅也
	取締役	市野 真理子	社外監査役	三島 宏太

事業内容 青果物加工・流通業

従業員数 786名(他、臨時雇用者数 2,283名)2024年9月末日時点 連結
※2024年3月末日時点 747名(他、臨時雇用者数 2,225名)

デリカフーズグループの体制

デリカフーズホールディングス株式会社(持株会社)

青果物加工流通業



デリカフーズ(株)



デリカフーズ長崎(株)
たれ・ソース類の製造

※デリカフーズ(株)100%子会社

物流事業



F.S. Logistics co.,ltd

エフエス
ロジスティックス(株)



研究・コンサル事業



Designer Foods

デザイナーフーズ(株)



BtoC事業



RAKUSAI
楽彩(株)



事業モデル

仕入

加工・仕分

配送

調達



製造・仕分



物流



厳選された契約農家

- ・全国から安定供給可能
- ・大口ロット大量購入
- ・ニーズなど情報共有
- ・共同研究

Fresh & Speedy

- ・チルド帯の自社工場
- ・全国19の拠点
- ・食品安全認証取得
- ・豊富な商品



お客様へお届け

- ・自社トラック100台以上
- ・コールドチェーン構築
- ・必要な時に必要な分だけ

研究・コンサル

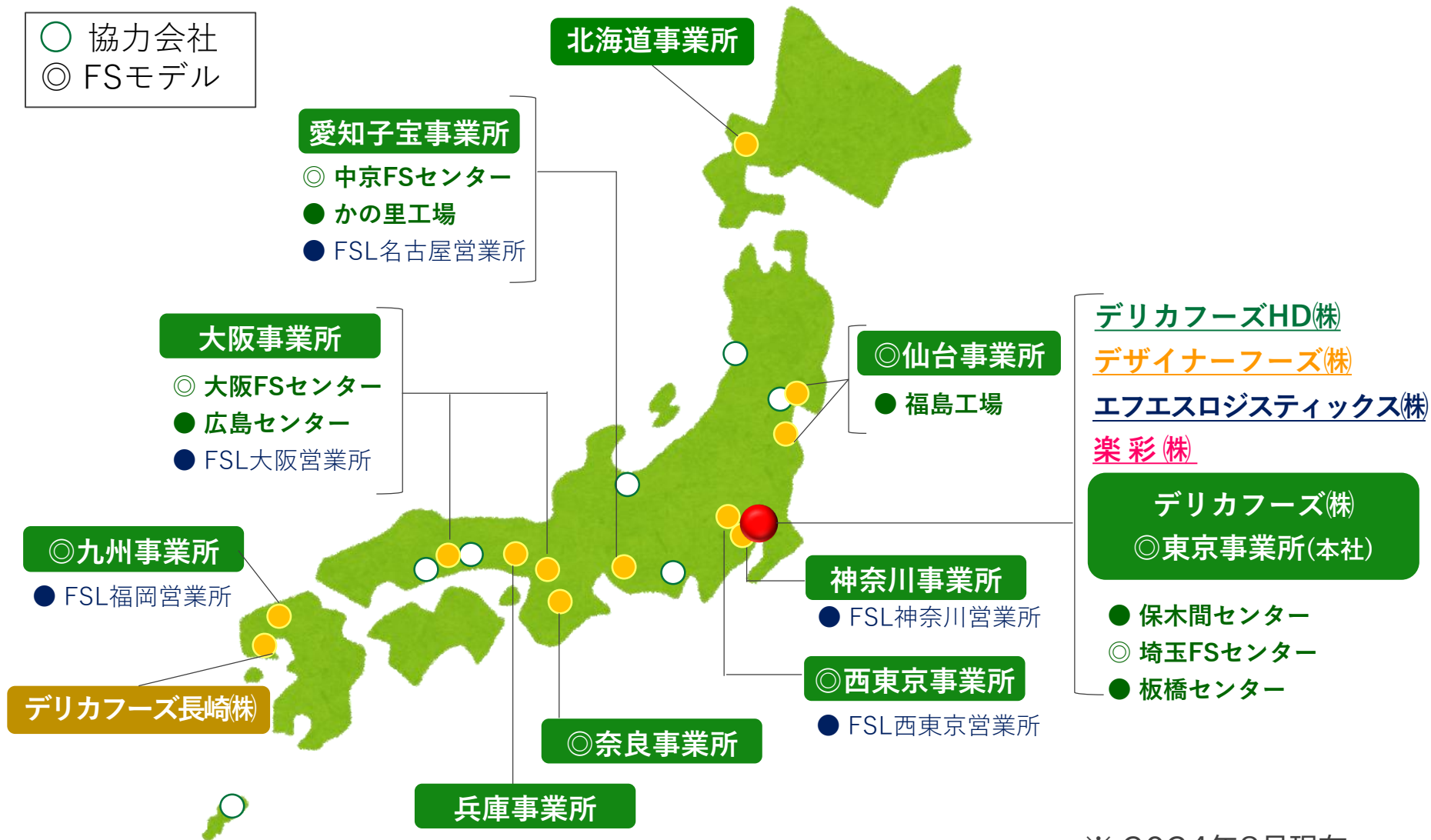
R&D 部門

青果物についての分析/研究
教育機関・研究機関・他社との共同開発や業務提携



全国へ広がる配送網

デリカフーズ直営19拠点と協力会社から **日本全国3万店舗**へ



※ 2024年8月現在

デリカフーズグループの強み

全国に展開する最新鋭の拠点

全国に展開する物流網

青果物に特化した多様な商品群

世界に類を見ない研究データ

経営資源を徹底活用した提案営業力

若手・女性を中心とした人財力

社会的活動

SDGS



2. 業績説明

決算サマリー

1	売上高の状況	売上高 前年同期比+10.7%で上期の過去最高を更新 ➢ インバウンドを含む人流増加から外食需要が堅調 ➢ 引き続き人手不足がカット野菜需要の追い風に ➢ 販売チャネルの最適化を図りながら顧客ニーズに幅広く応えることで売上高は着実に増加
2	利益の状況	経常利益 前年同期比大幅減で赤字転落 ➢ 従業員の賃金アップや処遇見直しをはじめ、商品開発や研究開発への投資等が先行的に発生 ➢ 大阪FSセンターの立ち上げにかかる一過性の諸経費も増加 ➢ 長雨や猛暑等の影響で各種野菜の生育不良・品質不良が発生し、輸入商材を含め仕入価格が急騰
3	財務の状況	借入金の返済が順調に進む中、自己資本比率は前期末比若干の改善で30%を維持 ➢ 中間純損失を計上するも、現金及び現金同等物の増加から借入金の返済も順調に進み、ネットD/Eレシオは1倍以下に改善、自己資本比率も前期末比若干の改善で30%を維持
4	業績予想	10月に売上高予想を上方修正、利益予想を下方修正済み、1株当たり配当予想額は不変 ➢ 足元の状況に加え、戦略投資の一部前倒し対応を勘案 ➢ 大型投資の一巡を踏まえ配当性向の目線を見直し済みであり、来期の1株当たり配当額は前期と同額の12円予定で変わらず

経営環境 (2024年4月～2024年9月)

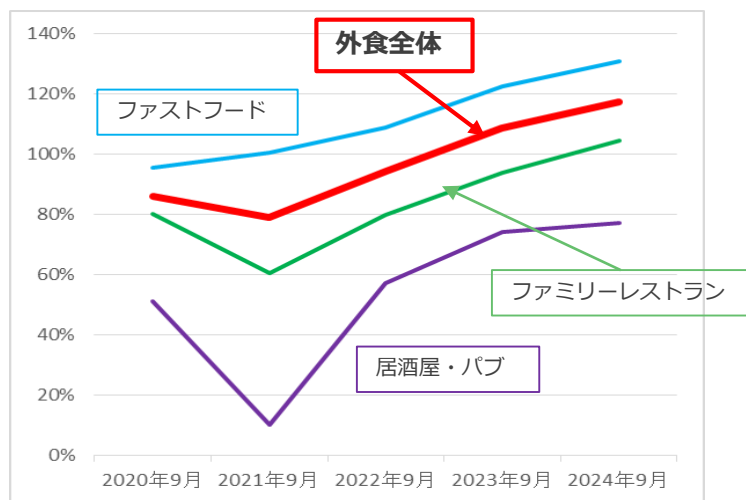
- ・ インバウンドも含めた人流の増加から外食需要は増加基調を継続。慢性的な人手不足、物価高など、経営環境は予断を許さない状況が続く。
- ・ 異常気象・天候不順の影響で野菜価格の高騰が期を通じて継続。対象品目は時期をずらしながら広範囲に及び、高騰のスピードも近年に例がない状況。

食品関連業界・青果物業界

- 需要は堅調に推移
- 資源価格・原材料価格の高騰
- 物流費・人件費の上昇

天候不順による野菜の高騰の常態化を想定した抜本的見直しが急務。

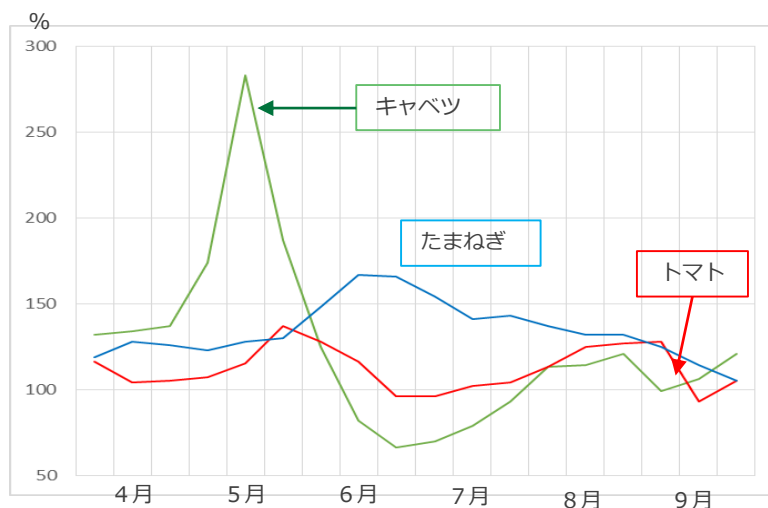
外食業態別の売上高推移 (2019年9月比)



(出所) 日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」

Copyright © DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.

青果物卸売価格 対前年同月比推移



(出所) 農水省「青果物卸売市場調査」

業績概要

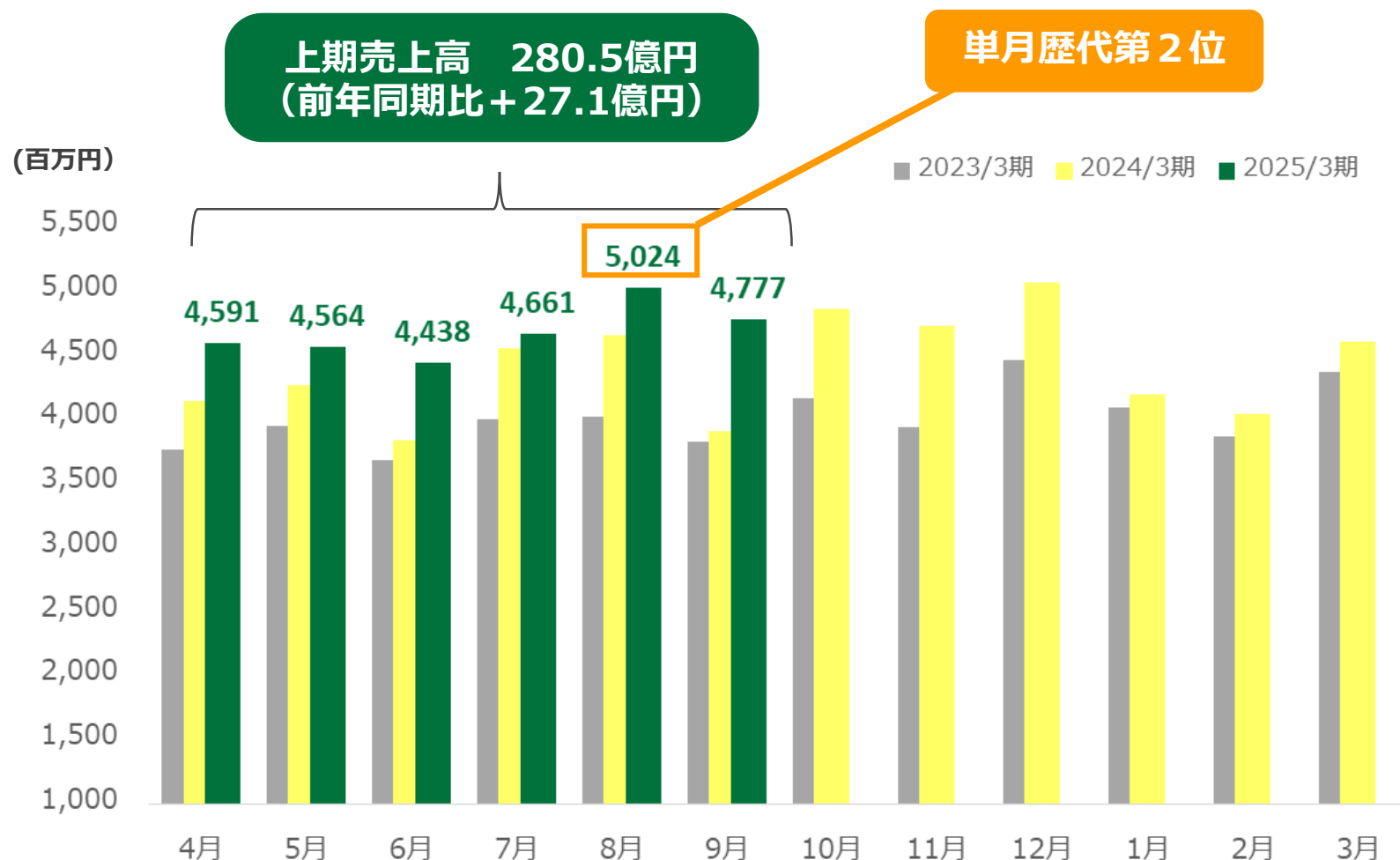
社会・経済活動の正常化に伴う外食産業における需要回復基調や、省力化ニーズの高まりを捉え、前期比+10.7%の増収。一方、損益面については仕入率の上昇、処遇改善や大阪FSセンター立ち上げ等に伴う経費増が響き、赤字転落。

	単位 億円 % (△損失)			
	① 2024年3月期 (2Q実績)	② 2025年3月期 (2Q実績)	②-① 前期比 増減	②÷① 対前期 増減率
売上高	253.4	280.6	27.1	10.7%
営業損益	3.3	△ 1.1	△ 4.4	-
経常損益	3.8	△ 0.7	△ 4.5	-
当期純損益	3.2	△ 0.7	△ 3.9	-
1株当たり当期 純損益(円)	19.68	△ 4.07	△ 23.75	-
EBITDA	8.7	5.0	△ 3.6	-41.9%

※EBITDA＝経常利益＋減価償却費

業績推移（月別売上高）

月別売上高は各月とも前年対比で増加、8月には単月実績として歴代第2位を記録。
累計売上高は280.5億円と上半期としての過去最高を更新。



売上高の内訳

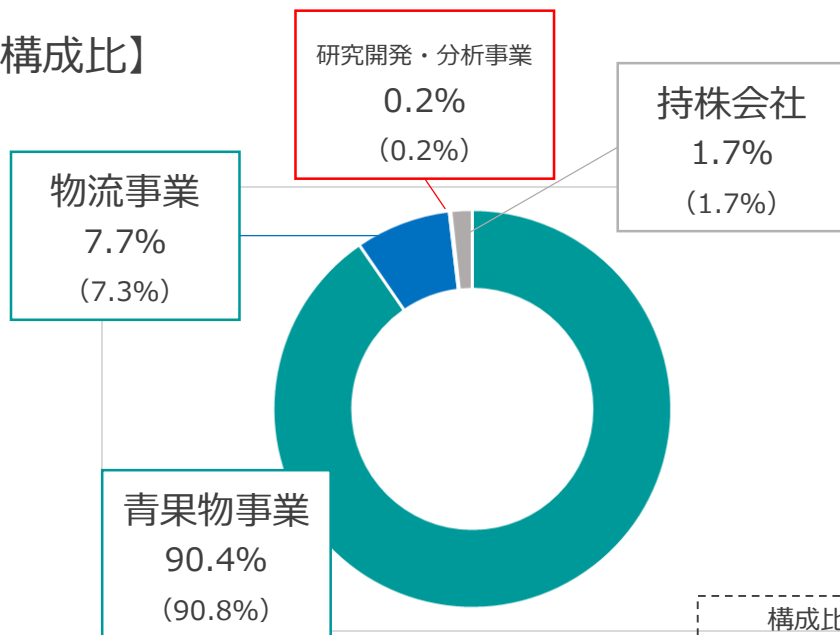
【事業セグメント別内訳】※連結消去前

	単位 億円		
	① 2024年3月期 (2Q実績)	② 2025年3月期 (2Q実績)	②-① 前期比 増減率
青果物事業	250.2	276.6	10.5%
物流事業	20.2	23.7	17.2%
研究開発・分析事業	0.5	0.4	-12.5%
持株会社	4.6	5.3	14.1%

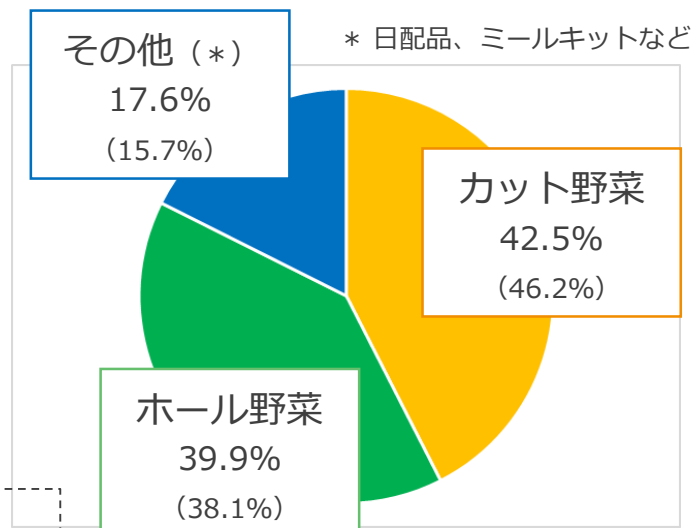
【商品別内訳】

	単位 億円		
	① 2024年3月期 (2Q実績)	② 2025年3月期 (2Q実績)	②-① 前期比 増減率
カット野菜	117.0	119.2	1.9%
ホール野菜	96.6	112.0	15.9%
その他	39.8	49.4	24.1%

【構成比】



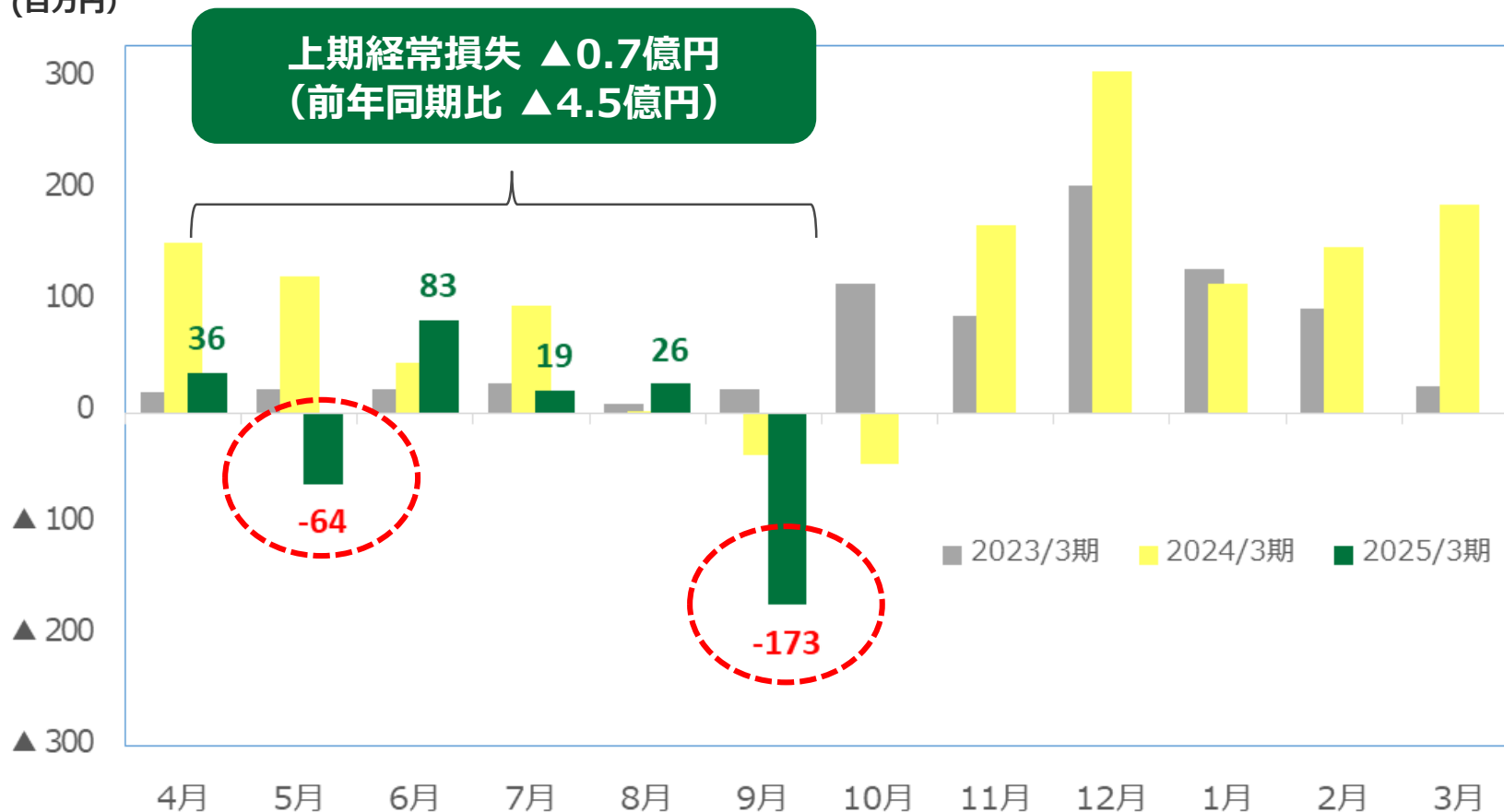
【構成比】



業績推移（月別経常利益）

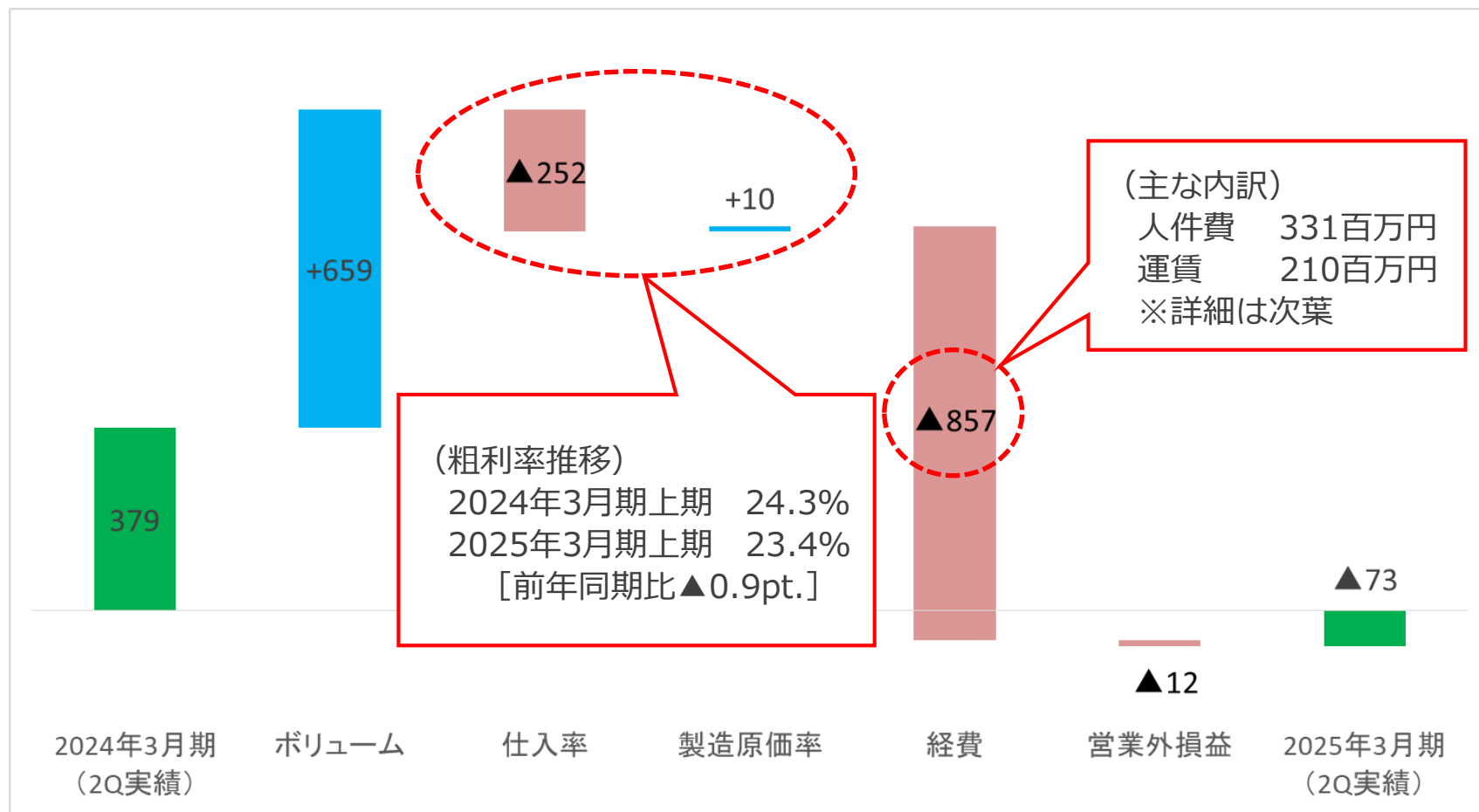
月別経常利益については、全般的に低調に推移。6月、8月は前年同月を上回ったものの、他の月は前年実績割れ。5月、9月には赤字を計上、上期累計でもコロナ禍以来3期ぶりの経常赤字となった。

(百万円)



経常利益増減分析（概観）

2025年3月期(通期実績)の経常利益は、増収効果はあったものの、天候不順に伴う仕入率の悪化から粗利益率は前年同期比0.9pt.の低下。加えて人件費、運賃をはじめとする経費増が大きく影響し、経常赤字に転落。



経常減益の要因分析（詳細説明）

粗利益率低下 ▲0.9pt.

- ✓ 天候不順に伴う野菜価格の急騰
- ✓ 原料品質悪化に伴う歩留まり率低下
- ✓ 仕入不足を市場調達し、差損を計上

販管費上昇 +0.9pt.

- ✓ 処遇改善に伴う人件費増
（正社員、パート従業員）
- ✓ 大阪FSセンターの立ち上げに係る
諸経費の増加（減価償却費ほか）
- ✓ 物流業界の人手不足を反映、
運賃市況は高止まり

下期以降の対応

- 個社ごとの取引採算を踏まえた、
厳格できめ細やかな売価改善交渉
- 製品のアイテム数・規格数の集約
～製造現場の自動化・省力化
- 仕入体制の一部見直し
～本部集中購買の導入
在庫管理の厳正化
仕入形態の一部見直し
～重量ベース調達の導入
- 生産体制の再編、貯蔵機能の強化、
輸入野菜の国産化推進
（以上、後出）

財務の状況

当期損失となった一方で有利子負債の返済が進んだこともあり、ネットDEレシオは1倍以下の水準に改善、自己資本比率は小幅改善で引き続き30%以上を維持。

	単位 億円 %		
	①	②	②-①
	2024年3月期 (期末実績)	2025年3月期 (2Q実績)	前期末比 増減
有利子負債 *1	137.9	129.4	△ 8.5
自己資本	87.5	84.7	△ 2.8
総資産	288.5	277.0	△ 11.5
ネットDEレシオ *2	1.09	0.88	△ 0.21
自己資本比率	30.3%	30.6%	0.2%
ROE	12.3%	-1.5%	-13.9%

*1 有利子負債 : 短期借入金+長期借入金+リース負債

*2 ネットDEレシオ : (有利子負債-現預金)/自己資本

キャッシュフローの状況

営業キャッシュフローは、減益に伴う減少の一方、売上債権減少（前期末に休日要因約7億円あり）、補助金の受取などがあり、全体としては大幅に増加。今期に入り設備投資も抑制され、フリーキャッシュフローはプラスに転換。借入金の返済を着実に進めながら、現金及び現金同等物の期末残高は増加。

	単位 億円		
	①	②	②-①
	2024年3月期 (2Q実績)	2025年3月期 (2Q実績)	前期比 増減
営業活動による キャッシュフロー	4.4	26.0	21.6
投資活動による キャッシュフロー	△ 18.2	△ 5.2	13.0
財務活動による キャッシュフロー	△ 1.3	△ 10.6	△ 9.3
現金及び現金同等物 期末残高	37.0	49.8	12.8

業績予想

需要の堅調な推移を背景に引き続き安定的な増収を見込む。一方、利益計画については、上期までの野菜価格高騰の影響や先行する経費負担が一部は通期で影響することに加え、戦略投資の一部前倒しを予定していることもあり、各段階とも下方修正、前期比大幅減益とする。

		単位	百万円	%
2025年3月期連結業績予想 (修正後)		前期比 増減		
売上高	56,000	6.0%		
営業利益	600	-47.1%		
経常利益	700	-44.4%		
当期純利益	430	-57.6%		
EBITDA	1,850	-13.1%		
ROE	5.0%	-7.3%		

配当金及び配当性向の推移

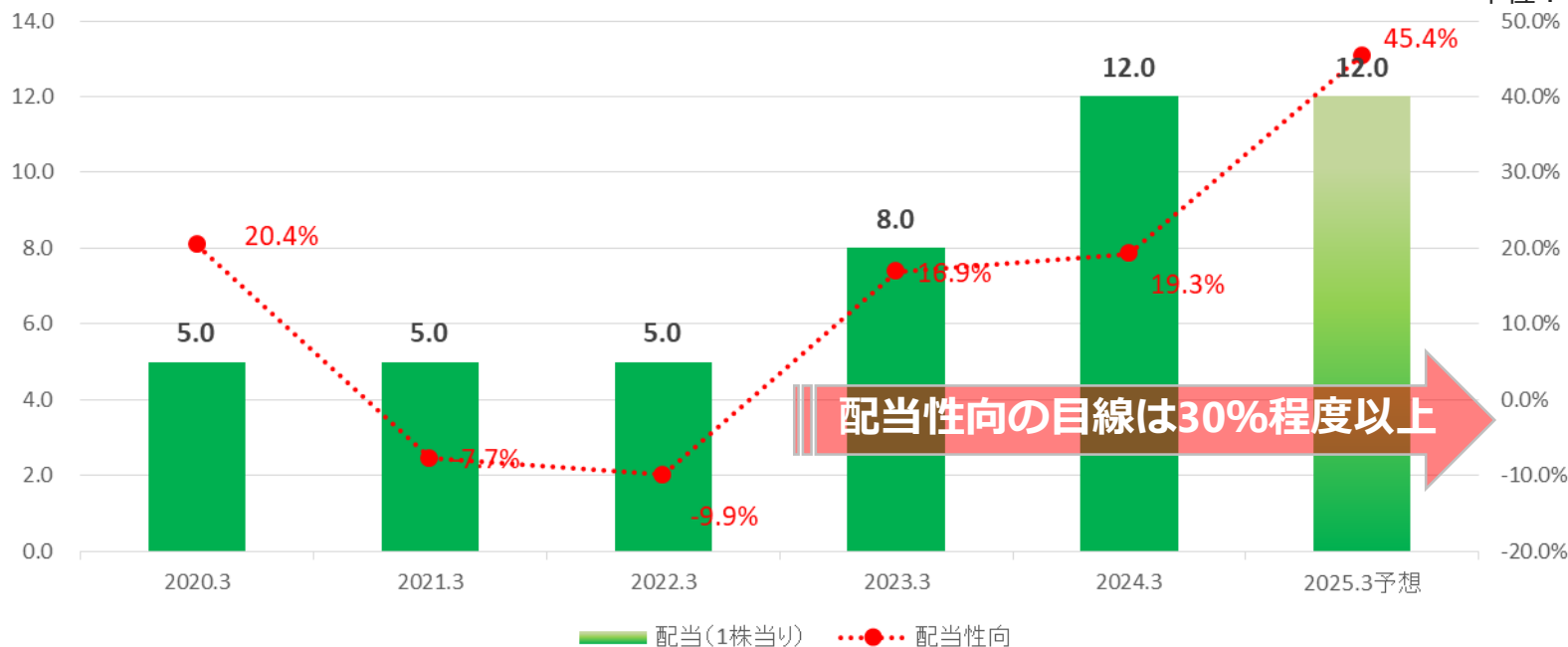
当社の基本的な配当方針は「安定的・継続的な利益配分の実施」。

大型投資の一巡を踏まえ配当性向の目線を30%程度に転換済み。
2025年3月期は、1株当たり12円配当を維持する予定（期初から不変）。

(1株当たり配当金)
単位：円

＜1株当たり年間配当金及び配当性向の推移＞

(配当性向)
単位：%



3. 上期トピックスと

第五次中期経営計画の実行状況

10年後(2034年) のありたい姿

野菜の総合加工メーカーとしてのポジションを確立

(野菜の価値と可能性を徹底的に追求して農業と健康に貢献)

持続可能な農業の実現

(社会課題・環境課題に真摯に向き合い持続可能な農業の実現に貢献)

個人の幸福と会社の繁栄の両立を実現

(人々から選ばれ、社会から必要とされる企業)

「第五次中期経営計画」基本方針（事業戦略）

- ✓ 1,000億円企業に向けて「事業構造の変革」と、調達から販売までの「サプライチェーン構造の変革」に挑戦、それを支える「R&D部門の強化」を図る

（１） 各種ポートフォリオの変革

事業ポートフォリオの変革 / 顧客ポートフォリオの変革 /
商品ポートフォリオの変革

（２） 青果物サプライチェーンの構造変革

輸入野菜の国産化推進 / 調達インフラの再構築 /
青果物サプライチェーンの合理化

（３） 研究部門・開発部門への投資拡大

食と農・健康を繋ぐ研究部門の拡大（野菜を中身で評価） /
長期保存技術の研究推進 / 新規事業・商品開発の強化

2024年度上期 経常利益悪化の原因

大阪FSセンター開業による費用増
(開業に関わる一過性コストの上振れ)

▲0.3億円

大阪・奈良・兵庫エリアの業績悪化
(大阪FSセンター開設により稼働率低下)

▲0.5億円

前期売価改善を超える調達単価の高騰

▲2.1億円

人件費増 (ベースアップ・処遇改善・その他)

▲0.8億円

合計 (当初見込み3億円)

▲3.7億円

主要数値目標と上期実績（財務）

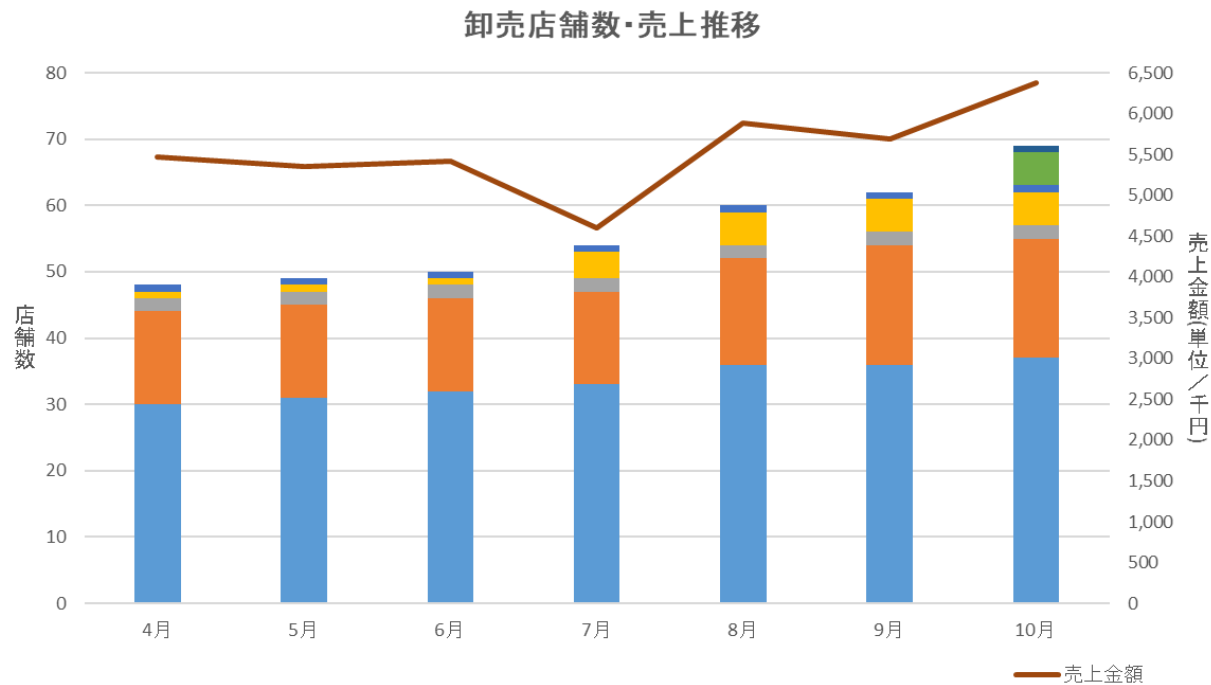
※連結ベース

	2024年 3月期 [実績]	2025年 3月期 [目標]	2024年 9月期 [実績]	2025年 3月期 [予想]
売上高	5 2 8 億円	5 5 0 億円	2 8 0 億円	5 6 0 億円
経常利益 (経常利益率)	1 2 . 5 億円 (2 . 4 %)	10.5 億円 (1 . 9 %)	▲ 0 . 7 億円 (▲ 0 . 3 %)	7 . 0 億円 (1 . 3 %)
EBITDA	21.3 億円	2 2 億円	5.0 億円	1 9 億円
ROE	1 2 . 3 %	7 . 2 %	▲ 1 . 5 %	5 . 0 %

〔ご参考〕 想定する現状の株主資本コストの水準： 5%～10%程度

BtoC（BtoBC）事業の展開

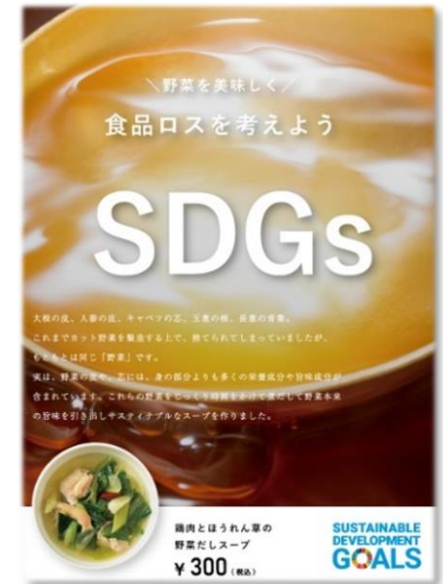
ミールキットを中心に小売業・生協への販路拡大



小売・量販店向け
のミールキット取扱店
68店舗（25店増）

サステナブルな取り組み

野菜の端材を活用したベジブロード（野菜出汁）を中心に、顧客とのサステナブルな取り組みを推進



食品事業部の取り組み

冷凍フルーツの小分けを販売
(製造: 愛知冷凍工場)
上期獲得金額: **約650万円**



ブロッコリーの煮びたしを販売
(製造: デリカフーズ長崎)
上期獲得金額: **約500万**

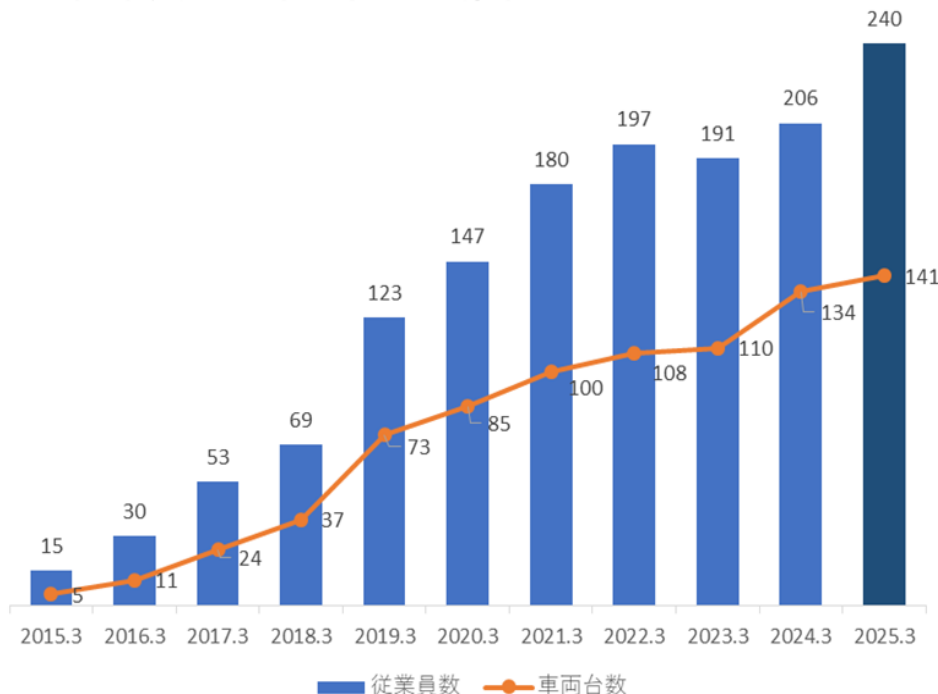


本品500g (米450g 3合用)

物流事業の状況

〔単位：千円〕

従業員数と車両台数の推移



	法人名	今期実績	前年度実績	前年対比	前年差	利益率
1	エアウォーター	34,780	8,111	428.8%	26,669	13%
2	ベジテック	11,396	702	1623.4%	10,694	10%
3		18,086	9,043	200.0%	9,043	5%
4		8,601	0		8,601	10%
5	九州屋	110,908	103,152	107.5%	7,756	7%
6		7,363	0		7,363	12%
7		5,955	0		5,955	12%
8		5,649	343	1646.2%	5,306	12%
9		5,225	0		5,225	30%
10		12,516	8,211	152.4%	4,305	7%
上位10社売上高		220,479				

	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期上期
グループ売上	87.1%	85.3%	84.6%
グループ外売上	12.9%	14.7%	15.4%

2024年度下期課題

取引条件見直し交渉の更なる強化

関西エリアでの売上獲得

従業員の採用強化および定着率の向上施策

第5次中期経営計画の実現加速

青果物サプライチェーンの構造改革

**世界的な気候変動に
業界（農業・サプライチェーン）が追いついていない**

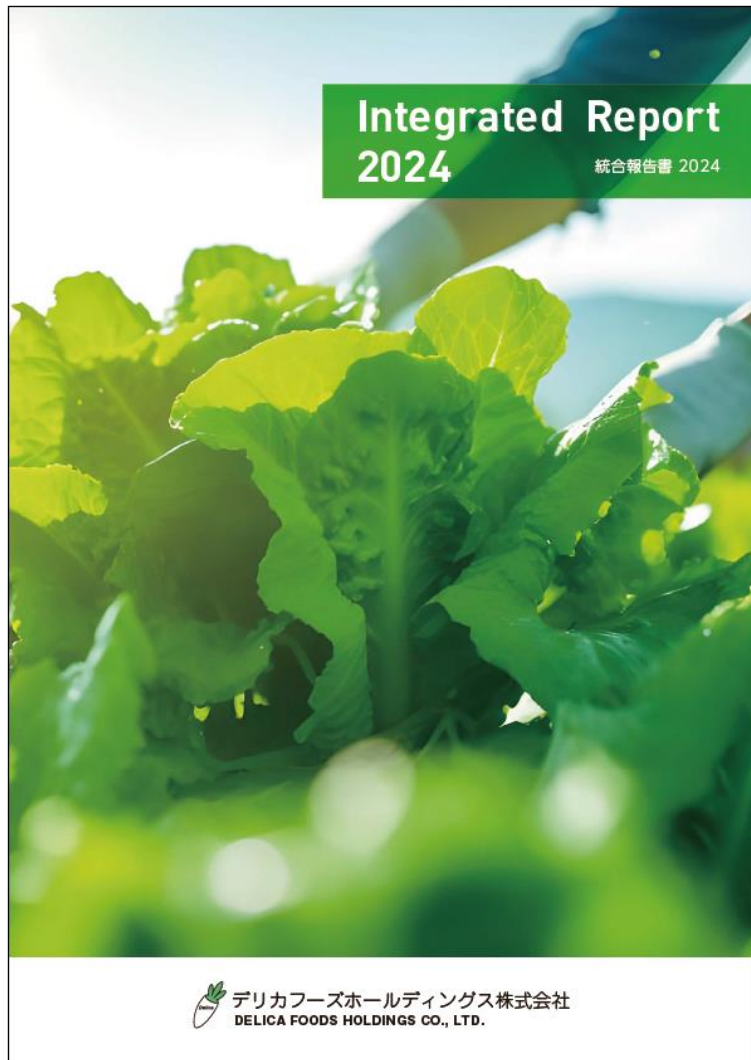


玉葱専用工場の開設（旧大阪工場） 2025年4月

貯蔵センターの開設＋貯蔵技術の開発 2025年6月

特定品目における業界を巻き込んだプロジェクト発足

「統合報告書2024」の発行



株主・投資家をはじめとするすべての
ステークホルダーに、財務・非財務情報
を統合的に伝えることを目的として、
グループ初となる「統合報告書2024」を
発行、コーポレートサイトにて公開。

当資料取り扱い上の注意点

当資料には将来見通しが含まれております。将来見通しは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。この将来見通しは仮定または仮定に基づく根拠が含まれており、環境によっては想定された事実や根拠は実際の結果とは異なる場合があります。当社または当社の経営者は将来の結果についての期待または確信を述べていますが、その期待や確信、あるいはそれに近い結果が実際に達成されるという保証はありません。

また法令上、別途の定めがある場合を除き、当社はいかなる将来見通しも最新のものとする義務を負っておりません。

(本件についてのご連絡先)

デリカフーズホールディングス株式会社

電話 03(3858)1037 FAX 03(5851)1056

Purpose of Delica Foods Group

野菜の未来を変える。
野菜で未来を変える。

デリカフーズ
DELICA FOODS GROUP

